



2019年9月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年8月13日

上場会社名 株式会社グローバルキッズCOMPANY

上場取引所 東

コード番号 6189 URL <http://www.gkids.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石橋 宜忠

問合せ先責任者 (役職名) 財務IR部長 (氏名) 生川 雅也

TEL 03-3221-3770

四半期報告書提出予定日 2019年8月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第3四半期の連結業績(2018年10月1日～2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第3四半期	14,487	14.7	189	51.7	1,743	5.1	1,092	24.2
2018年9月期第3四半期	12,631	32.7	392	28.8	1,658	25.0	879	23.3

(注) 包括利益 2019年9月期第3四半期 1,105百万円 (19.4%) 2018年9月期第3四半期 925百万円 (45.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第3四半期	119.69	116.56
2018年9月期第3四半期	99.20	96.07

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第3四半期	18,318	7,697	41.9
2018年9月期	15,691	6,577	41.8

(参考) 自己資本 2019年9月期第3四半期 7,677百万円 2018年9月期 6,558百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期		0.00		0.00	0.00
2019年9月期		0.00			
2019年9月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年9月期の連結業績予想(2018年10月1日～2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,650	15.4	115	66.0	1,750	8.7	1,090	94.9	119.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年9月期3Q	9,155,058 株	2018年9月期	9,105,071 株
期末自己株式数	2019年9月期3Q	171 株	2018年9月期	171 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年9月期3Q	9,129,269 株	2018年9月期3Q	8,868,609 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性情報(4)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業収益や雇用・所得環境の改善により緩やかに回復しているものの、米中貿易摩擦による世界的な景気減速懸念が高まるなど、先行きは不透明な状況で推移しました。

このような環境のなか子育て支援事業を取り巻く状況は、女性の社会進出に対する意識の変化や政府による女性の活躍推進などにより、共働き世帯数や女性の就業率は依然として上昇傾向にあり、保育に対する需要は引き続き高い状況にあります。

こうした保育需要増加に対応するため、政府・自治体が保育の受け皿拡大を目的に保育士確保や保育所整備の施策を進めており、2020年度末までに32万人分の受け皿を上乗せする方針です。また、2019年10月から幼児教育・保育の無償化が始まることで保育所への入所希望者が増える可能性があり、保育所の新設に対する需要は当面続くと見込まれます。

高齢化や総人口の減少による労働人口の減少が懸念されるなかで、経済の活力の担い手となる女性の社会進出のためには保育環境の整備が喫緊の課題であり、子育て支援事業者の社会的役割は一段と重要性を増しております。

こうした状況のもと、当社グループは東京都や神奈川県、埼玉県、大阪府において、保育所の開設を進め、当第3四半期連結会計期間に以下のとおり保育所22施設、学童クラブ1施設を新規に開設しております。

また、保育事業でのこれまでの経験を活かし、新規事業として児童発達支援事業を開始し、当社グループ初となる児童発達支援施設「グローバルキッズAct清澄白河」を新たに開設いたしました。

この結果、当社グループは当第3四半期末時点で認可保育所（東京都）86施設、認可保育所（神奈川県）23施設、認可保育所（千葉県）3施設、認可保育所（埼玉県）1施設、認可保育所（大阪府）5施設、認証保育所・認定こども園等保育施設23施設、企業主導型保育所11施設、学童クラブ・児童館13施設、児童発達支援施設1施設の計166施設を営んでおります。

(保育所)

東京都

グローバルキッズ茗荷谷園
 グローバルキッズ大塚四丁目園
 グローバルキッズ武蔵新田園
 グローバルキッズ西六郷園
 グローバルキッズ上池台園
 グローバルキッズ八広園
 グローバルキッズ大岡山園
 グローバルキッズ沼袋園
 グローバルキッズ浜田山園
 グローバルキッズ志茂保育園
 グローバルキッズ町屋保育園
 グローバルキッズ桜台保育園
 グローバルキッズ宇喜田町園
 グローバルキッズ経済産業省保育室
 グローバルキッズアークヒルズ園
 めばえ保育ルーム上野毛
 めばえ保育ルーム都立大学
 めばえ保育ルーム下北沢

神奈川県

グローバルキッズ美しが丘保育園
 グローバルキッズ磯子保育園
 グローバルキッズ上大岡園

大阪府

グローバルキッズ上新庄園

(学童クラブ)

東京都

グローバルキッズ飯田橋第二学童クラブ

なお、新規開園資金のうち一部（内装工事等）に対して自治体から補助金が交付された場合、営業外収益の「補助金収入」に計上されます。当社グループにおける保育所等の新規開設は4月に集中するため、第3四半期（4月～6月）に補助金収入が多額に計上される傾向があります。当第3四半期連結会計期間においても、新規開設を進めたため多額の補助金収入を計上しております。

また、運営施設数の増加を主因とした園児数増加により売上高が増加した一方で、次年度の園児受入れを見据えた現場人員の採用に伴い人件費関連や採用費等が増加し、売上原価、販売費及び一般管理費が増加しました。

上記の結果、当第3四半期連結累計期間は、売上高14,487百万円（前年同期比14.7%増）、営業利益189百万円（同51.7%減）、経常利益1,743百万円（同5.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益1,092百万円（同24.2%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ2,627百万円増加し18,318百万円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末と比べ324百万円増加し3,588百万円となりました。これは、4月の新規開園により設備投資に係る補助金が交付され現金及び預金が348百万円増加した一方、未収入金が138百万円減少したことが主因です。

固定資産は、前連結会計年度末と比べ2,303百万円増加し14,730百万円となりました。これは、保育所の新規開設に伴い建物及び構築物が2,201百万円増加したことが主因です。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末の総負債は、前連結会計年度末と比べ1,508百万円増加し10,621百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末と比べ217百万円減少し2,878百万円となりました。これは、未払法人税等が188百万円減少したことや引当計上期間の差異により賞与引当金が167百万円減少したことが主因です。

固定負債は、前連結会計年度末と比べ1,725百万円増加し7,743百万円となりました。これは、長期借入金金が1,051百万円増加したことが主因です。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比べ1,119百万円増加し7,697百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が1,092百万円増加したことが主因です。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年9月期通期の連結業績予想につきましては、本日（2019年8月13日）に公表いたしました「営業外収益（補助金収入）・営業外費用（開設準備費用）の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,301	1,649
未収入金	1,597	1,458
前払費用	349	470
その他	15	10
流動資産合計	3,264	3,588
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,668	10,869
建設仮勘定	566	23
その他(純額)	476	973
有形固定資産合計	9,711	11,866
無形固定資産		
ソフトウェア	108	97
ソフトウェア仮勘定	—	24
無形固定資産合計	108	122
投資その他の資産		
投資有価証券	37	77
長期前払費用	721	758
敷金及び保証金	1,492	1,540
建設協力金	346	330
繰延税金資産	9	7
その他	0	26
投資その他の資産合計	2,607	2,740
固定資産合計	12,427	14,730
資産合計	15,691	18,318
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	869	917
1年内償還予定の社債	35	23
未払金	1,240	1,232
未払法人税等	224	36
前受金	90	87
賞与引当金	445	277
その他	189	303
流動負債合計	3,095	2,878
固定負債		
社債	23	—
長期借入金	4,205	5,256
退職給付に係る負債	188	214
繰延税金負債	1,407	1,945
資産除去債務	184	318
その他	9	7
固定負債合計	6,017	7,743
負債合計	9,113	10,621

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,267	1,274
資本剰余金	1,955	1,963
利益剰余金	3,405	4,498
自己株式	△0	△0
株主資本合計	6,629	7,735
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△0	△1
退職給付に係る調整累計額	△69	△56
その他の包括利益累計額合計	△70	△58
新株予約権	19	19
純資産合計	6,577	7,697
負債純資産合計	15,691	18,318

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年6月30日)
売上高	12,631	14,487
売上原価	10,779	12,558
売上総利益	1,852	1,929
販売費及び一般管理費	1,459	1,739
営業利益	392	189
営業外収益		
受取利息	2	5
補助金収入	1,668	2,004
その他	4	5
営業外収益合計	1,675	2,015
営業外費用		
支払利息	25	25
開設準備費用	365	432
その他	17	3
営業外費用合計	409	461
経常利益	1,658	1,743
特別損失		
減損損失	※1 111	—
閉園に伴う損失	※2 5	—
システム解約損失	—	16
特別損失合計	116	16
税金等調整前四半期純利益	1,541	1,727
法人税等	661	634
四半期純利益	879	1,092
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	879	1,092
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	△1
退職給付に係る調整額	45	13
その他の包括利益合計	45	12
四半期包括利益	925	1,105
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	925	1,105
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(四半期連結貸借対照表)

前連結会計年度において「固定負債」の「その他」に含めていた「資産除去債務」は、金額的重要性が増したため、第3四半期連結会計期間より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定負債」の「その他」に表示していた193百万円は「資産除去債務」184百万円、「その他」9百万円として組み替えております。

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

※1 減損損失

前第3四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	種類	場所	減損損失 (百万円)
施設 (3施設)	建物及び構築物 有形固定資産「その他」	大阪府大阪市 他	111

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位に基づき、施設を基本単位として資産のグルーピングを行っております。このうち、営業損益が悪化している施設について、帳簿価額を回収可能価額まで減額したほか、移転を伴う認証施設の認可移行の際に既存認証施設を閉鎖したことに伴い、減損損失(建物及び構築物109百万円、有形固定資産「その他」1百万円)として特別損失に計上しております。

なお、回収可能額は使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため零としております。

※2 閉園に伴う損失

前第3四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年6月30日)

移転を伴う認証施設の認可移行の際に既存施設を閉鎖したことに伴い、原状回復工事費用3百万円、閉園後の家賃1百万円が発生し、閉園に伴う損失を計上いたしました。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「子育て支援事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(企業結合等関係)

(連結子会社の合併)

当社連結子会社である株式会社グローバルキッズおよび株式会社ろくは、2018年9月20日開催の取締役会において、2019年4月1日を効力発生日として、株式会社グローバルキッズを存続会社、株式会社ろくを消滅会社とする吸収合併を行うことを決議し、2019年4月1日付で吸収合併いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び当該事業の内容

(吸収合併存続会社)

名称 株式会社グローバルキッズ

事業内容 子育て支援事業

(吸収合併消滅会社)

名称 株式会社ろく

事業内容 子育て支援事業

(2) 企業結合日

2019年4月1日

(3) 企業結合の法的形式

株式会社グローバルキッズを存続会社、株式会社ろくを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

株式会社グローバルキッズ

(5) その他取引の概要に関する事項

本合併は、企業構造のスリム化により経営資源の有効活用と業務効率の改善を行い、事業基盤の強化を図ることを目的としております。

2. 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成25年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理をしております。